

4強の壁を越えるために

サッカー部

私たち秋田高校サッカー部は、4月に新入部員9人を迎え、3年生9人、2年生8人の合計26人と決して多くはない人数で活動しています。それでも1年生9人の加入は私たちの大きな喜びであり、これまで練習や遠征の時などに感じていた不自由さを解消できる力になると期待しています。

秋高サッカー部の現在の目標は、全県大会で4強に入ることです。過去にインターハイに出場経験のあるチームですが、まずは一歩ずつ目標を上げようということで、この目標を設定しています。

近年秋田県では4強がほぼ固定されています。私たちは一昨年の高校選手権・全県新人、昨年の全県総体・高校選手権と続けて8強に入ってきましたが、ことごとく4強の壁に阻まれてきました。昨年の高校選手権では、相手チームが3年生主体のチームだったのに対し、私たちは1・2年生のみという状況で、健闘したものの体力面や技術面で4強との差を強く感じる結果となりました。

そこで私たちは、より高いレベルのサッカーを体感するために、学校や保護者、OB会など多くの方々に協力してもらい、オフシーズン中に広島遠征と神奈川遠征に挑んできました。広島遠征では、自分たちのサッカーがある程度通用するという自信と手応えを獲得しました。神奈川遠征では、全国大会で優勝経験のある強豪校などの対戦を経て、秋田とのプレースピードの違いなどを肌で感じてきました。

遠征で経験したことも交え私たちは現在、相手へのアプローチを早くしてプレッシャーを与えること、そういった早いアプローチの中で如何に精度の高いプレーが出来るかということに重点を置いて練習しています。

秋高サッカー部が4強に入った、もしくはそれ以上の成績を残したという知らせが、卒業した先輩方に届くようにチーム一丸となって頑張りますので応援よろしくお願いします。

〔平成27年度サッカー部主将〕

3C 佐藤 大将



対由利工業戦(昨年5月)で相手陣営に攻め込む秋高(白)

自由な雰囲気自主運営

吹奏楽部

秋田高校吹奏楽部は「生徒主体」をモットーに日々活動に取り組んでいます。部活の運営や練習計画を部員自ら立て、練習を行っていきます。秋田高校の自主自律の精神の下、生徒一人ひとりが責任と自覚を持ち、それぞれの役割を果たせるよう努めています。これは他の部活動などにはないこの部活独特の体制だと思っています。

そんな私たちの目標の一つが、「ヴィルトゥオーゾ」というものです。これは技術が一流である達人を意味します。部員がそれぞれの楽器を達人のようにうまくなることで、よりレベルの高い演奏ができるよう心がけています。

また、私たちの部活練習後の時間の使い方は様々です。勉強との兼ね合いをみる人もいれば、自分の好きなだけ楽器の練習を続ける人もいれば、友達と談笑している人もいます。このような自由な雰囲気もこの部活のいいところだと思います。

そして、私たちは現在、5月30日に秋田県民会館で行う第61回定期演奏会に向けて練習に励んでいます。この演奏会では、多くの方にお楽しみいただけるようクラシック、ジャズ、ポップスなど幅広いジャンルの音楽をお届けします。もちろん、ここでも部員が率先して構成や演出を考えていきます。ぜひ会場に足をお運びください。

これから吹奏楽部は、勝負の夏へと突入します。新入生を迎え新たな体制となりました。来る全日本吹奏楽コンクールでいい結果が残せるよう、部員一丸となって常に進化し続けていきたいと思います。

〔3D 高橋 奏季〕



会心の演奏!、満面の笑顔(^^)(昨年7月、全日本吹奏楽コン県中央地区大会・秋田県民会館)

事務局通信

120周年の記念事業として刊行した「先蹤録」が、同窓会ホームページの「同窓生の今」から見ることができるようになりました。これを見ての問い合わせが県内外からあります。ホームページのすごさを感じます。偉大なる人物を輩出したわが母校。その一端を先蹤録から読み取れます。機会を見て是非ご覧ください。150周年を見据えての周年誌および先蹤録の特別委員会もスタートしました。

編集後記

春は出会いと別れの季節。卒業生には母校で培った品性の陶冶に磨きをかけ、新入生には入学式の感激を忘れずに悔いのない3年間を送ってほしい。▼往年の高校球児たちが甲子園に集合、100年前の試合を再現する。わが矢留倶楽部にはけがに気をつけて存分の活躍を期待したい。

(半可通)